

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
 (仮称)市営桜の宮住宅建替事業(2期)(C工区) C4敷地(南西棟)

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.7</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		Dr-50				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		Lr-45				-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-50				-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						-	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>
2.1 室温制御						-	-	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温						-	-	-	-	
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当				-	-	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.43	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率		<住居部分>2.0%以上				-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御		カーテンと庇を組み合わせて昼光を制御している				-	-	4.0	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.21	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.36	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.2</b>	0.25	<b>4.3</b>	1.00	<b>4.3</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆、VOCの放散量が少ない建材をほぼ全面的に採用				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.3</b>	0.38	
1 換気量						-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/8以上				-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	1.00	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.1</b>	0.40	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>4.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		各住戸に100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能				-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画		兵庫県「福祉のまちづくり条例」適合				4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>4.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		天井高2.5m以上				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画事前検証を実施				4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の使用等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		廃棄物のスペースを確保等				5.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準.3劣化の軽減に関する事において等級3相当				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		フローリング:20年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な上位3種類の2種以上にBを使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		光ケーブルなど通信多様化、精密機械を地下空間に設置していない				4.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.2</b>	0.30	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>4.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満	-	-	4.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	構造材を傷めることなく修繕、更新できる。	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		自生種の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地づくり等	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		建物の色彩等のまちなみへの調和、植栽による良好な景観を形成	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.5</b>	0.30	-	-	<b>4.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	エントランス、EVホールにベンチを設置し、豊かな中間領域を形成	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率を上げ、緑化を多くしている	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱により外皮熱負荷を抑制	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.73	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	設備毎の説明書に加え省エネに関する住まい方の説明を実施	5.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水コマなどに加えて、節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.9</b>	0.60	-	-	<b>3.9</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		機械式継手等採用	4.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		バルコニー:ビニル床シート等	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		「躯体+木下地・LGS下地+仕上材」により分別が容易としている	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		シーリング材、ビニル床シート接着剤等	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム3種等	4.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率を抑制している	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		風下地域への風の通り道を遮らないよう配慮	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保、出入口への配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風環境評価指標によるランク評価を行い、一部上のランクがある	4.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明は不採用	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	